学位授与番号	医博乙第1481号
学位授与年月日	平成11年3月17日
氏　　名	荒 井 秀 樹
学位論文題目	閉塞型睡眠時無呼吸症候群に関する神経精神医学的検討 －歯科装具による下顎前方移動治療の効果について－
論文審査委員	主 査　教 授　越 野 好 文
	副 査　教 授　山 本 悦 秀
	教 授　高 守 正 治

内容の要旨及び審査の結果の要旨

閉塞型睡眠時無呼吸症候群（obstructive sleep apnea syndrome, OSAS）と診断され，歯科装具（dental appliance, DA）治療を施行された成人17名を対象に，DA治療前後の精神生理学的および心理学的検討を行った。短期治療後（平均3か月）に，精神生理学的指標により短期治療効果を検討するとともに，DA治療前後の心理学的検討と顎態の形態学的検討を行った。また，長期治療後（平均13か月）に，精神生理学的指標による長期治療効果の検討と，質問紙によるDA治療の長期コンプライアンスを評価した。

無呼吸数および睡眠時低酸素血症は，短期および長期治療後ともに治療前に比べて有意な改善が認められた。睡眠構築の変化については，短期治療後に睡眠分断は減少し，睡眠の質的内容も改善し，長期治療後も短期治療後の改善は持続していた。精神心理学的変化では，短期治療後に平均作業量の有意な増加や脱漏数の減少傾向が認められ，精神作業能力は量的および質的に改善する傾向がみられた。さらに，心理学的指数に関係する生理学的因子の検討では，注意力に対する低酸素血症の影響が示唆された。OSAS患者の顎態に関しては，下顎および舌骨の位置異常が示唆され，DA治療では，下顎を前方に移動させることによりこれらの位置異常が矯正され，その結果もたらされる舌根部の気道径増大が，無呼吸の改善に影響している可能性が示唆された。一方，長期治療後での自覚的副作用の報告は少なく，DA治療に対する満足度は高かった。DAを3日／週以上継続使用していた者の割合は高く，長期治療コンプライアンスは良好であると考えられた。

OSASに対するDA治療では，無呼吸数および夜間低酸素血症から見た短期治療効果については報告がある。しかし，睡眠構築や精神心理学的変化も含めて検討した報告はなく，長期治療コンプライアンスについても明らかではない。OSASによる障害が多領域に及んでいることや，簡便かつ長期にわたり効果的な治療法が要求されていることから，本研究の結果は意義あるものと考えられる。

本論文は睡眠時無呼吸症候群の新しい治療に寄与する価値ある労作と評価された。